

### 1. 軍政に恐怖、タイのカンボジア人労働者帰国続く

タイの軍事政権が外国人労働者の規制強化方針を打ち出して以降、タイを脱出し、故郷を目指すカンボジア人労働者が相次ぐ。「帰国しないと逮捕や射殺されると聞いた」。カンボジアのタイ国境の街ポイペトでは、帰国した人々が軍政への恐怖を口にした。カンボジア当局によると、ポイペトを中心に陸路で帰国した人々は6/17までに約 18 万人。地元県知事は「こんなことは初めてだ」と話す。ポイペトの出入国管理事務所近くには仮設テントが並び、政府当局者や医師、非政府組織(NGO)関係者らが待機する。「勤務先が警察の捜索を受けた」「逮捕されるのが怖かった」「拷問を受けるから帰れと(カンボジアにいる)母親に言われた」。取り締まりに関するうわさが広まり、人々は口々に恐怖を訴え、軍のトラックなどで故郷に向かった。タイ軍政は逮捕や強制送還などを否定し、火消しに躍起だが、不安定な状況にある外国人労働者にとってクーデターを起こした軍政は恐怖の対象でしかない。失業率が1%程度のタイでは労働集約型産業に人手が集まらず、外国人労働者が農業や漁業、建設業などを中心に労働需要を埋めている。国内にはミャンマー人を中心に200万人以上の外国人労働者がおり、不法滞在者を含めると約300万人との推計も。経済界からは大量帰国に懸念を示す声も出ている。

一方で、ミャンマー人労働者の帰国の動きは目立たない。「タイと国境問題を抱え、過去に交戦が起きたことや、**ポル・ポト派時代の記憶がカンボジア人の軍政に対する恐怖を増幅させているのではないか**」とNGO関係者は指摘した。

### 2. 英製糖テートを提訴、土地収奪とカンボジア住民

カンボジア西部コックコン州の200世帯の代表が、地元民から収奪された土地で栽培されたサウキビを原料に利益を上げているとして、英国の製糖大手テート・アンド・ライルを法的措置に訴えている。原告の200世帯を含む400世帯は2006年、タイ大手コンケン・シュガーが過半数株を握る州内のサウキビ農園が、不法に土地を収奪したと非難。13年3月には、テート・アンド・ライルがこの農園から調達したサウキビで利益を上げているとして、英国の裁判所に補償を求めて提訴した。同年7月以降、示談交渉が進んでいたが、住民側は今年9月、テート・アンド・ライルが示した代替の土地と金銭による補償の提案を拒否したことを明らかにした。10月に法廷で争うことになるという。住民の一人は、「2006年に14.5ヘクタールのマンゴーとカシューの農園を収奪された」と明かす。補償案については、「3~4キロ離れた場所で土地を提供するというが、具体的な場所が示されていない」と話した。200世帯に対して現金総額30万5,000米ドル(約3,120万円)を支払う案も示されていた。

### 3. ヌオン・チア被告ら元ポト派幹部7月末審理

6/12、カンボジアの旧ポル・ポト政権による大虐殺を裁く特別法廷は、ポト派ナンバー2だったヌオン・チア元人民代表会議議長(87)とキュー・サムファン元国家幹部会議長(82)の元最高幹部2被告について、分割審理の2番目となる裁判の公判を7月30日に開始すると発表した。少数民族チャムやベトナム人に関する大量虐殺罪や、処刑や強制結婚など人道に対する罪などについて審理する。

### 4. カンボジア縫製労働条件を改善、H & M が取組み

労働省は、スウェーデンの衣料販売チェーン世界大手H&Mおよび国際労働機関(ILO)と協力し、労働組合と工場が直接契約を結んで労働環境を改善するよう促すことで合意した。委託先工場で昨年ストライキに遭ったH&Mが資金を拠出し、スウェーデン政府、スウェーデンの貿易組合IFメタルも協力する。H&M向けの縫製を手がけるM&Vインターナショナル・マニュファクチャリングの工場で昨年、約2,000人の労働者が、食費と交通費の支給と妊婦を解雇せずに産休を与えるよう求めてストを決行。H&Mのカール・ヨハン・ピアソン最高経営責任者(CEO)はこれを受け、カンボジアに最低賃金を毎年見直すよう求めていた。カンボジアでは昨年12月から今年1月にかけて、首都プノンペンを含む多数の工場でストが実施された。カンボジア縫製協会(GMAC)と8つの労働組合の連合の間では2012年、労使関係の改善に向けた覚書が交わされた。カンボジア縫製業民主労働組合連合(CCAWDU)のアト・トーン書記長は、覚書が今年10月に失効するのを控え、「全国的な覚書を更新し、取り組みを確実に継続する必要がある」と述べた。

### 5. 最低賃金引上げルール基本合意

6/16、労働諮問委員会は、来年以降の最低賃金引き上げのルールについて基本的に合意したと発表した。同委員会は、政府(労働省)、雇用者(カンボジア縫製製造業協会=GMAC)、労働者(労働組合)のそれぞれの委員で構成され、これまで最低賃金について答申を行ってきた。今回の合意では、まず最低賃金を毎年1月1日に改定すること

が合意された。これまでは数年に1度の不定期の改定だった。また、委員会の開催スケジュールも固まり、第4四半期(10~12月)に最大3回の会合を開き、第1回、第2回で3者が全会一致で合意できない場合、第3回の会合で多数決で決定することとした。ただ今回の会合では、最低賃金自体の改定公式(インフレ率の反映方法など)については合意できず、6月末に予定される次回の会合以降でさらに検討する。最低賃金の決定について、労働諮問委員会の討議に基づいて決定することは重要な原則。その基本的ルールが固まっていくことは、労使関係の正常化、問題回避に重要な役割を果たすと期待される。

## 6. 国際協力で初の女性職員派遣＝カンボジアに－北九州市

北九州市は19日、カンボジアへの水道事業支援をする専門家として事務職の女性職員を長期派遣する辞令を出した。国際協力で女性の本格的派遣は同市では初めて。約20年に及ぶ水道事業支援では技術支援がメインだったが、経営支援など仕上げの段階に入っており、今後は事務分野で活躍する女性職員の派遣が増える見込み。北橋健治市長は「女性の活躍の場は広がる。生き生きと働いてもらいたい」と激励した。派遣されるのは上下水道局総務経営部営業課の井手美由紀さん(37)。同市のカンボジアの水道支援は国際協力機構(JICA)事業を活用しており、井手さんはJICA専門家として、カンボジアの8都市を回り、財務管理、顧客情報管理、未納整理などを指導する。期間は6月下旬から2カ月間。井手さんは「カンボジア各都市では状況が違う。それぞれの都市の担当者に問題意識を持って納得して取り組んでもらえるよう頑張りたい」と抱負を語った。

## 7. 大型飼料工場近く完成、カンボジア西部パイリン

カンボジア西部のパイリン特別市で、大型の飼料工場・倉庫が向こう数カ月で完成する見通しだ。地元の農・畜産業の発展に貢献すると期待されている。工場オーナーのチア・キア氏は、工場が10月に完成すると見通しを示し、「建設作業はほぼ終わり、加工機械も据え付けた。屋根などの仕上げが残っているだけだ」と明らかにした。周辺の農家からとうもろこしやキャッサバを引き取り、飼料に加工、一部は加工せずにタイに輸出する。倉庫の貯蔵能力は6万トン。キア氏は、「農家から高値で原材料を仕入れる。農家はブローカーに買い叩かれずに済む」と語った。

工場の建屋面積は2ヘクタールで、投資額は1,000万米ドル(約10億円)。キア氏が持つ敷地110ヘクタールの養豚場の一角にある。キア氏は、タイ国境のダイヤモンド・クラウン・カジノの経営者でもある。パイリン・ロンガン(竜眼)組合の幹部スレン・スレアン氏によると、これまでは地元加工工場がなかったため、タイに輸出する際、ブローカーを介する必要があった。今後は、農家側の価格決定権が強まると期待する。

## 8. スヴァイリエン州バベットのマンハッタン経済特区内で、ストライキ後に解雇相次ぐ

スヴァイリエン州バベットのマンハッタン経済特区内にある2工場が、5月上旬に終結した数千人規模ストライキによって、結果40人以上の労働者を解雇していることが分かった。Collective Union of Movement of WorkersのMeas Soknaさんの話では、経済特区全体を閉鎖に追い込んだこの大規模ストライキのリベンジとして、縫製工場のBest Way社とFico社が解雇を行ったのだという。Best Wayの社員によると、40人が解雇されたのは先週で、すでに10人の新しい労働者が働き始めているという。しかしBest Wayの経営サポートを行っているSek Somporse氏は、「今回の解雇はストライキと何の関係もないものです。労働者を解雇したのは、働きぶりがよくなかったからです。彼らは仕事熱心ではなかったし、性格も強情でどうしようもありませんでした。ストライキとは関係のない話です」と語っている。

## 9. カンボジアの労働環境の国際比較は最低に近い

International Trade Union Confederationのレポートによれば、カンボジアは仕事をするのに最も適していない国のうちのひとつであるとのことだ。『The 2014 ITUC Global Rights Index』では、カンボジアで働く労働者の自由やストライキといった権利がきちんと尊重されているかどうか焦点が当てられる。結果、カンボジアはミャンマーやイラク、パキスタンよりも権利の損害度合いがひどいという。1月に起こった縫製業労働者によるストライキでは、少なくとも4人が死亡している。カンボジアがレポート内で『評価5』を受けたのはその騒動も大きく影響しており、『権利の保障がない国』として、サウジアラビアやバングラデシュ、ジンバブエなどの不名誉な国の仲間入りを果たしてしまう結果に終わった。

レポートのなかに以下のような文面がある。『労働者達は労務に関する知識はある程度持ち合わせているが、実際に自分たちの権利を守る方法を知らないし、実行できない。それゆえに不当な扱いをされている』と、『評価5プラス』は、シリアや中央アフリカ共和国のような法が完全に破綻した国にのみ付けられており、最悪の評価である。しかしながら、『評価5』の国々は権利の保証度合いに関しては、『評価5プラス』とほとんど大差はないという。

カンボジアの今回の評価に大きく影響を及ぼしたのは、1月3日にVeng Sreng Boulevardで勃発した銃撃戦だ。『労働者に暴力をふるったり殺したりする警察官は、労働者の基本的な人権を無視しており、これは大変な問題であって非難さ

れて然るべき事柄である』と、レポートには記されている。慢性的な残業や工場の貧相な建築、また、短期間契約の過剰使用といった問題もある。

ITUC は、今回の情報に関しては、国際的にも最も信頼のできるデータベースを使用しているという。このレポートに対し政府のスポークスマン Phay Siphon 氏は、「これはカンボジア国外の人々が勝手に決めたもので、正しいはずはありません。実際は全く違います。カンボジアは働くのにそんなに悪いところではないはず。このレポートには賛同できません」と話す。Garment Manufacturers' Association in Cambodia の事務局長 Ken Loo 氏からはまだコメントがない。

## 10. ストライキ支援の組合代表、逮捕を逃れる

5/22の朝、ストライキを行っていたプノンペン縫製工場の労働者達が、警察と警備員に逮捕されかけた2人の組合リーダーを、力づくで解放させることに成功した。Worker Friendship Union Federation の代表 Seang Sambath 氏は、「WFUF の代表 Mao Vannak 氏と、事務局長の Yi Yet 氏が、朝9時ごろ Por Sen Chey 地区の Cambo Handsome 工場周辺で、警察官と民間の警備員によって身柄を拘束されたようです。その工場ではおよそ3000人がストライキを行っていました。2人は、1週間以上ストライキを行っていた工場の労働者の味方をして、工場側との仲裁に入るために工場に来ていました」と彼は話す。Sambath 氏によると、ストライキをしていた労働者達が、警察官と民間警備員に捕まっていた2人を引き離して連れ戻したようだ」と話す。

匿名を希望した Por Sen Chey 地区の警察官は、「私達があそこへ行ったのは、暴力を未然に防ぐためです。人を捕まえるためではありません」と反論している。しかし WFUF の職員 Phong Leakhena 氏は、「警察官と民間警備員合わせて10人ほどが、労働者を逮捕しようとしていました」と証言している。労働者がストライキで要求しているのは、月に20ドルの交通費支給と、労働者に対して不適切な言葉遣いをしたという、縫製セクション監督の解雇であるという。Cambo Handsome 工場の代表からはまだコメントはない。Community Legal Education Center のコンサルタント Joel Preston 氏は、「Cambo Handsome 工場の監督は、労働者に対して過去にも差別を行ってきた」、と話す。2011年に同工場で労働者の解雇をめぐる起こったストライキでは、警察官との衝突に発展している。

## 11. 少年僧が大量に気絶

10歳から13歳の見習い僧と一般市民46人が、5/14、アンコールワットで行っていた瞑想中に意識を失っていたことがわかった。シェムリアップの警察官 Chea Kimsan 氏は、「新しく任命された若い僧と一般市民合わせて100人以上が2時間に渡って瞑想していたとき、何人かがその最中に気絶しました。皆が協力して、気絶した人をシェムリアップ州立の Referral 病院に運び出しました」と話している。Monysovann パゴダの僧を統括する La Insak さんは、「シェムリアップの僧団体は、出家の洗礼を受けるメンバーを15歳以上で募集しておりましたが、多くの家族が小さな子供を連れてきていたようです。参加者はまず、夕食は抜かなくてははいけません。また、平和を祈禱するための行進と、その後の瞑想にも参加しなくてははいけません。瞑想は、過去に自分が行った良い行いと悪い行いを、思い出させてくれるものです。すべての参加者が、お腹をすかして朝早く目を覚ました。行進と瞑想で疲れきっていたのです。子供達は泣き喚いて、その後、気を失ってしまいました。気絶した46人の参加者のうち、25人が入院しました」と話している。シェムリアップ州立病院の Dr Muong Narin 副院長は、「朝の4時に起きて何千メートルも行進を行い、その後瞑想を長時間行う、ということを繰り返したせいで、血糖値を下げきってしまったのだと思います」と気絶の原因について説明し、「適切な治療を受け、コーラやミルクなどを飲ませたら、少しずつ状態は良くなりました」と話した。

## 12. 日本への輸出が拡大へ

JETRO の出したデータによると、カンボジアから日本への輸出額が、2014年最初の3ヶ月で、前年同時期と比べて39%もアップしていることが分かった。3月終わりの時点で、合計輸出額は前年1億2800万ドルを余裕で上回り、1億7800万ドル以上にまで増加した。「2国間の関係がよくなっていることを指し示しています」と話すのは Business Research Institute for Cambodia の Suzuki Hiroshi 氏。Suzuki 氏は、輸出品の大半を縫製品がしめているが、電子機器の輸出もまた増加しているという。カンボジアで行う電子機器製造に、日本が多く投資をし始めたことが理由だと見られている。「これまで、主な輸出先はUSとEUでした。しかし、いまは日本がカンボジアにとって重要な輸出先のひとつになっており、それもただ縫製業の製品だけではありません。アジア各国のサプライチェーンの一端として、カンボジアは重要な役割を担いつつあります」とも話した。

## 13. ガソリンスタンドのストライキ終焉へ

ストライキを行っていたガソリンスタンド Caltex の労働者たちは、一度仕事に復帰していたものの5/23に、再度ストライキを行っていた。そして昨日、アメリカ企業 Caltex が労働者の権利を損害していると労務省に申し立てる準備を進める

のと並行して、一旦仕事に戻ったようである。ストライキを行っていた 20 人のうちのひとり、Yoeun Reth さんは、「労働者たちは、気が進まないながらも職場に戻って行きました。会社は近い将来、私たちがストライキをしたり抗議活動をしたりする権利を奪おうとしているようです。私たちは怒っていますが、我慢して仕事を再開しました。会社が労働者を差別し続けるのであれば、ストライキはまた起こるでしょう。仕事へ復帰するときはちゃんと会社側との同意書を作って判も押さなくてはなりません」と話している。Caltex の経営側は、月に 20 ドルの賃上げと、ストライキ期間中の賃金支払いを先週認めており、実際に労働者は今月、約束した金額を受け取っている。

#### 14. 最近の外資の進出状況

##### ・タイ上場IFEC、プノンペンにゴミ発電所建設

6/06、タイの事務機器販売会社、インター・ファーイースト・エンジニアリング (IFEC) は、プノンペンで廃棄物の処理とゴミを燃料にした発電所建設を行うため、現地当局と覚書 (MOU) を結んだと発表した。IFEC はタイ上場企業で「コニカミルタ」の複写機を販売するほか、新規事業としてタイ国内で太陽光発電所などを建設してきた。

##### ・英のロールスロイス、プノンペンに販売店開設

6/09、高級車メーカーの英ロールス・ロイス・モーター・カーズは、プノンペンに7月、ショールームを開くと発表。

##### ・NTTコム、大容量光海底ケーブルを拡張

6/12、NTTコミュニケーションズは、アジアの主要都市を結ぶ大容量光海底ケーブル「アジア・サブマリンケーブル・エクスプレス (ASE)」のルートを拡張し、カンボジアに接続すると発表した。カンボジア地場の通信大手チュアン・ウェイ (カンボジア) と提携に合意。

##### ・インフィニトラベル、カンボジア航空とシステム接続

6/10、日本の航空券予約システム (GDS) 大手インフィニトラベル (東京都港区) は、カンボジア・アンコール航空とのダイレクトアクセス機能が稼働したと発表した。同航空の会社ホストコンピュータに接続し、実残席の確認が可能になった。

##### ・華新水泥、カンボジアのセメント会社を2400万ドルで傘下に

上海証取に上場するセメントメーカーの華新水泥 (湖北省黄石市) は、カンボジアのセメント会社カンボジア・セメント・チャクレイ・ティン・ファクトリー社を買収し、傘下に収める。華新水泥にとり、タジキスタンに次いで二つ目の海外工場となる。買収手続きは完了済み。

以上